

入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

<東京農業大学>

本学は、「生命」、「食料」、「環境」、「健康」、「エネルギー」、「地域創成」をテーマに、農と生命を科学し“生きる”を支える農学の進化に挑戦し、持続的な社会の発展に貢献する人材を養成します。そのため、本学では、次のような学生を求めています。

- （１）農学を学ぶにあたり、基礎的学力と必要な知識を有している。
- （２）「生命」、「食料」、「環境」、「健康」、「エネルギー」、「地域創成」などに関心を持ち、地域社会や国際社会で活躍する意欲を有している。
- （３）実験・実習・演習等に通じた学びに強い関心があり、多様な人々と協働して学ぶ姿勢を有している。
- （４）ある事象に対して多面的かつ論理的に考察して自分の考えをまとめ、適切に他者に伝えることができる。

■農学部

農学部では、生産科学、生命科学、環境科学および生活科学としての農学の立場から、生命現象の解明、国内外における農作物や畜産物の安全かつ安定した生産と供給および技術革新、さらには生物多様性の保全と活用、動植物や食の持つ多様な機能の活用による人の生活の質の向上など、広範な領域で活躍できる人材を養成しています。そのため、本学部では次のような学生を求めています。

- （１）高等学校までに得られる国語、英語、数学をはじめ、農学を学ぶ上で必要な生物や化学などの基礎学力と知識を身につけている。
- （２）人類社会の直面する食料問題、資源問題や環境問題などの解決、生命現象の解明に取り組む意思と意欲を持っている。
- （３）自然や生き物の持つ価値を理解し、それらを人類の福祉と持続的な社会の構築に役立てる意欲を持っている。

<農学科>

農学科では、農作物の特質、栽培・管理技術、遺伝的多様性などに興味を持ち、豊かな心と実学的知力を身につけて、国内外において農業を中心とした広範囲な分野で活躍しようとする意欲のある学生を求めています。

- （１）農学に留まらず、生命、生態系など、生物学に関する素養と化学、数学に関する基礎学力を身につけている。

- (2) 農業および関連産業で活躍するために、柔軟な思考力と豊かな表現力を備えている。
- (3) 農業問題、環境問題などを主体的、協働的に学ぶ意欲を有している。

<動物科学科>

動物科学科では、動物や動物関連産業に興味を持ち、将来の人生設計に活かすためにそれらに関する知識・技能を身につけ、世界的な視野に立って活躍したいという意欲のある学生を求めています。

- (1) 本学科での専門科目の理解に必要な知識、特に生物、化学、数学ならびに英語の基礎的な学力を身につけている。
- (2) 生命の尊厳や倫理を学び多様な価値観を受け入れられる豊かな心を育み、深い洞察力を持ち、的確な判断ができる。
- (3) 動物に強い関心を持ち、動物を通して生命現象の本質を追究する意欲があり、何事にも真摯な態度で臨み、これを活用して人類の食料・環境・健康に貢献する意欲を有している。
- (4) 動物の生命・制御科学ならびに機能・生産科学に関する技能を修得するための実験・実習・演習に積極的に取り組み、自分の考えを持ちそれをしっかり他人に伝える表現力を有している。

<生物資源開発学科>

生物資源開発学科では、農用動植物のみならず、野生の動植物を含め、農業生態系やそれを取りまく里地・里山の環境から自然生態系に至る生物の多様性に興味をもち、その保全・管理から生物資源としての開発や利活用を通じて、未来に安心して託せる地球環境の保全と持続可能な社会づくりに貢献しようとする意欲のある学生を求めています。

- (1) 生命、生物多様性など、生物学に関する素養を身につけている。
- (2) 環境に配慮した農業や生物多様性の保全などの環境問題や、野生の動植物を含む生物多様性の解明、各種生物資源の保全や管理、開発などに積極的に取り組む意欲を有している。
- (3) 農業および環境関連産業、教育普及分野で活躍しようとする意欲を有している。

<デザイン農学科>

デザイン農学科では、生物や農の多面的機能を利用して、豊かで持続可能な社会を構築していくことに意欲のある学生を求めています。

- (1) 自然科学の知識に留まらず、幅広い科目の基礎学力を身につけている。
- (2) 日本および世界が直面している社会的な課題に関心を持ち、その解決に貢献する意欲を有している。
- (3) 従来の生産科学に特化した農学ではなく、工学、医学、福祉、生活科学等の幅広い関連分野を含めて俯瞰的に学ぶ姿勢を有している。

- (4) 社会的な課題の本質を抽出し、その解決策を策定、実践、発信することができる。

■ 応用生物科学部

応用生物科学部は、「生命」、「食料」、「健康」、「環境」、「エネルギー」などをテーマに、`生きる`を多角的に支える応用生物科学の力を駆使して、人と環境が調和する私たちの生活のあり方や未来に貢献する意欲を持ち、国際的な視野のもと、実社会で指導的立場に立って活躍することを目指す、次のような学生を求めています。

- (1) 高等学校において、化学、生物学および外国語を履修し、本学部で学ぶ上での必要な基礎学力、知識および語学力を有している。
- (2) 「生命」、「食料」、「健康」、「環境」、「エネルギー」などに関心を持ち、関連専門分野の実社会で活躍し、情報発信する意欲を有している。
- (3) 実験・実習・研究等を通じた学びに強い関心があり、主体性を持って多様な人々と協同して学ぶ姿勢を有している。
- (4) 様々な事象や未解決の課題に対し、多面的かつ客観的に観察し、理論的に考察して自分の考えを適切に他者に伝えることができる。

<農芸化学科>

農芸化学科は、化学もしくは生物に強い関心を持ち、化学と生物を統合した知識や技術を身につけることで、将来、医薬・化学・食品・農業分野の技術者・教育者として指導的立場に立って活躍できる、次のような学生を求めています。

- (1) 医薬・化学・食品・農業分野における科学的基盤に興味を持ち、生物と化学の研究を通じて将来の技術革新に貢献したいという意欲がある。
- (2) 化学と生物の知識や技術が作物生産からその利用までの諸問題の解決に役立つことを理解している。
- (3) 実験・実習を通じて好奇心や考察力を養い、自分の考えを論理的に伝えることの重要性を理解している。
- (4) 課題研究や実験・実習を通じて好奇心や考察力を養い、自分の考えを論理的な文章として他人に伝えることができる。

<醸造科学科>

醸造科学科は、微生物の生命活動により生じる発酵現象に興味を持ち、国内外における伝統的な微生物利用技術に関心を示し、これを論理的に科学することで、微生物を利用した技術開発や問題解決を行うことを志向する人材の養成を目指しています。これにより、将来、酒類・食品製造、環境浄化、

エネルギー開発等、微生物利用分野の技術者・事業者として指導的立場に立って活躍することを目指す、次のような学生を求めています。

- (1) 高等学校において、化学および生物の授業を履修し、その内容を十分に理解・修得している。
日本語の文章能力に優れ、適切な読解力および論理的な記述力を身につけている。高等学校卒業時に求められている数学および英語の能力を有している。
- (2) 微生物の示す発酵現象に関心を持ち、これを酒類・食品製造、環境浄化・エネルギー開発などに利用する分野で活躍する意欲を示している。
- (3) 実験・実習・研究等を通した学びに強い関心があり、主体的かつ多様な人々と協調的に学ぶ姿勢を示している。
- (4) ある事象に対して多面的かつ客観的に観察し、論理的に解析し、主体的に考察し、適切に他者に伝えることができる。

<食品安全健康学科>

食品安全健康学科は、生命に直結する「食の安全・安心」と「食の機能と健康」に興味を持ち、これを論理的に科学することで目の前のあらゆる困難な課題を解決する意欲を有し、将来、食品関連の技術者・教育者・行政官として指導的立場に立って活躍することを目指す、次のような学生を求めています。

- (1) 高等学校において化学および生物学の授業を履修し、内容について十分に理解している。また、語学においては、日本語・英語の双方について、文章の読解力、論理的な記述力を身につけている。
- (2) 主観的な思考に捕らわれず、客観的な情報・事実を収集・受容することにより事象における結果を判断できる。
- (3) 「食の安全・安心」と「食の機能と健康」に普段から関心を持ち、未解決の課題に対し、自らが参加して解決したいという強い意欲を有する。
- (4) 実験研究に興味があり、自らが中心となって、多様な人々と協働してその研究を実施する能力を有し、結果を社会に向けて発信できる。

<栄養科学科>

栄養科学科では、細胞や動物を対象とする食品栄養学分野とヒトを対象とする人間栄養学分野で、人々の健康に好ましい機能を与える食品や、その成分と生体が有する様々な機能との相互作用について追及しています。従って、食・栄養・健康に興味を持ち、管理栄養士の資格を活かして科学的根拠に基づいた食・栄養・健康の情報を活用し、様々なライフステージの人々に対し、健康の保持・増進、疾患の予防・改善、生活の質の向上に積極的に貢献し、また貢献する意欲を持ち、さらに、人間栄養学の知識を活かし、食品を消費の面から捉える能力を備え、将来、病院や介護施設の保険医療スタッフ・行政官・食品関連企業で指導的立場に立って活躍することを目指す、次のような学生を求めています。

- (1) 農学と医学を基盤とした食品学、栄養学に興味を持ち、学習意欲が旺盛で、管理栄養士として社会に貢献したいという意欲がある。
- (2) 高等学校において、食品学、栄養学を学ぶ上で基礎となる化学および生物学の授業を履修し、内容について理解・修得している。さらに国語や英語は、文章の読解力、論理的な記述力を身につけている。コミュニケーションを図るための基礎となる高等学校卒業時に求められている数学や現代社会・日本史などの社会科の能力を有している。
- (3) 社会が抱える健康上の課題とニーズを適切に捉え、科学的根拠の探索、情報の活用・発信のための研究に真摯に取り組むことができる。
- (4) 人々の健康に強い関心を持ち、豊かな人間力、コミュニケーション力を持っている。

■生命科学部

生命科学部は、生命の基本原理の解明、そして人類が直面する「生命」にまつわる諸問題の解決に果敢に挑戦し、研究成果の社会実装を通じて持続的な世界の発展に貢献する人材の養成を目指しています。そのため、本学部では、次のような学生を求めています。

- (1) 従来の農学に医学・薬学・理学・工学を取り込んだ複合的な生命科学研究に関心を持ち、意欲を持って学修に取り組むことができる。
- (2) 自然科学の共通言語である英語に関心を持ち、読む、書く、聞く、話す能力を高める意欲を有している。
- (3) 社会問題に関心を持ち、社会実装を通じてその問題解決に貢献しようとする意欲を有している。
- (4) 生命の理解に関わる基礎的な学力と論理的思考を有し、国内外の研究者と協働して研究を行うための豊かな人間力とコミュニケーション能力を持ち、それらをさらに高めようとする意欲を有している。

<バイオサイエンス学科>

バイオサイエンス学科では、まず生命科学に強い興味を持ち、さらに環境問題・健康などにも興味を持つことにより、グローバルな視点でこれらの問題解決にチャレンジする人材を育成します。そのため、次のような学生を求めています。

- (1) 生命科学に関する知識を学習・理解し、それを応用することができる。
- (2) 幅広い視野から問題意識を持ち、論理的に考えることができる。
- (3) 生命科学を基盤に食料・健康・環境等に強い関心を持ち、それらの問題解決に意欲的に取り組むことができる。
- (4) 実験・実習・演習等を通して学びに強い関心があり、多様な人々と協働して学ぶ姿勢を有している。
- (5) 正しい技術を身につけ、自分の知識や考え方を的確に表現し伝えることができる。

<分子生命化学科>

分子生命化学科は、理数系科目に優れ、論理性・客観性に基づいた判断が可能であり、高い倫理観に裏付けされた学習意欲を持ち、農学・生命科学領域に学びと生活を指向する人材の育成を目指します。そのため、次のような学生を求めています。

- (1) Newton 以来の伝統的科学に興味と学習意欲があり、高次自己組織体としての生物への応用を考えている。
- (2) 農学・生命領域の科学・技術に関心があり、本質を捉えた学びを希望している。
- (3) 現在人間の生活圏に様々な問題に対し、普遍的な思考・技術体系に従って抜本的な解決を与えようと考えている。

<分子微生物学科>

分子微生物学科では、目に見えないミクロの世界で起こる生命現象に強い興味を持ち、さらには微生物が関与する様々な生命活動を幅広く認識し、未知の研究領域を積極的に開拓することができる人材を育成します。そのため、本学科では、次のような学生を求めています。

- (1) 微生物だけでなく、植物や動物、また、分子変化は化学反応であるため、化学を含めた自然科学的基礎学力を修得する意欲を有している。
- (2) 調査能力、読解力、発信力、コミュニケーション能力に対して積極的に学ぶ姿勢を有している。

■ 地域環境科学部

地域環境科学部は、グローバルな地球環境から、ミクロな地域環境に至るまでの幅広い知識・理解力を有し、様々な環境問題の解決や持続可能な地域づくりに貢献できる人材の養成を目指しています。そのため、次のような学生を求めています。

- (1) 環境問題や環境共生型・循環型の地域づくり、地域環境と生物資源の保全・利用・管理に興味を持っている。
- (2) 環境問題や環境共生型・循環型の地域づくり、地域環境と生物資源の保全・利用・管理の実現に向けての幅広い知識や関心、柔軟な思考力を身につけている。
- (3) 環境問題や環境共生型・循環型の地域づくり、地域環境と生物資源の保全・利用・管理の実現に向けてチャレンジする意欲を有している。
- (4) コミュニケーション力や表現力などの素養を有している。

<森林総合科学科>

森林総合科学科は、広義の農学を基礎として、本学のアドミッション・ポリシーが掲げる「環境」分野へ

の貢献のために、広く各科目を学んだ者のうち、次のような学生を求めています。

- (1) 農林業、木材・特用林産物、環境保全・防災、農山村地域等、広く森林に関わるものごとに興味・関心を有している。
- (2) それらについて幅広い知識への関心や柔軟な思考能力を身につける意欲を有している。
- (3) みどり豊かな国土と健全な地域社会の創造に向けた問題発見能力や問題解決能力を身につけることを希望している。
- (4) それらの実現に向けてチャレンジする意欲を有している。

<生産環境工学科>

生産環境工学科は、「食料」、「環境」、「エネルギー」、「資源」、「農業」、「先端技術」をキーワードに、環境に配慮した農業生産を支える工学的な研究開発に挑戦し、持続可能な社会の創造に貢献する人材を養成しています。そのため、本学科では、次のような学生を求めています。

- (1) 英語の基礎学力を有し、「数学」、「情報」、「物理」、「化学」および「生物」のうち一つ以上の科目を受験科目として学んでいる。
- (2) 「農業生産」および「環境保全」、「情報技術」、「先端技術」について興味がある。また、それらを学ぶための基礎となる数学や物理について関心がある。
- (3) ある問題の現状や原因、対策について、限られた情報だけから判断することなく、関連領域に好奇心を持ち多面的に考えることができる。
- (4) 積極的に自己アピールができ、かつ、他者とのコミュニケーションがとれ、課題解決に向けて能動的に学習する意欲と現地調査をいとわない等の行動力がある。
- (5) 在学中に、工学的な考え方や技術を身につけ、自分の将来計画を考えることができ、その実現のために何をなすべきかを明確にできる。

<造園科学科>

造園科学科は、本学のアドミッション・ポリシーを踏まえ、「環境」と「緑」の分野に挑戦するため、次のような学生を求めています。

- (1) 自然、緑（みどり）、生きもの、環境、まちづくり、景観、デザイン、生活、健康、文化、歴史などへの興味と、自然科学・社会科学・人文科学の知識を有している。
- (2) 人間と自然が共生した空間や環境を実現するための植物・生物・地域・歴史に関する知識と、論理的思考方法、コミュニケーション能力などの技術を備えた造園家、造園技術者として、地域社会へ貢献することを目指している。

<地域創成科学科>

地域創成科学科は、広範囲におよぶ農山村地域を対象として課題を解決するため、本学部の研究において数十年に亘って培ってきたノウハウを結集させ、林学・農業工学・造園学を融合した新しい教育研究システムを学ぶことによって、地域環境科学に関連する幅広い専門的な知識と技術を身につけ、それらの知識・技術を運用できるマネジメント能力を持った「地域社会の担い手・リーダーとなる人材」を育成します。そのため、次のような学生を求めています。

- (1) 地域づくりに強い好奇心・関心を持っており、それに関連する専門知識や技術を修得するための基礎的学力を有している。
- (2) 持続可能な地域づくりに向けて、広い視野を持ち、他者協力して積極的に行動することができる。

■ 国際食料情報学部

国際食料情報学部は、人類共通の課題として提起された食と農の諸問題を地球規模的視野で捉え、これらの問題解決のために取り組む人材を養成します。そのため、本学部では、次のような学生を求めています。

- (1) 食料・農業分野を総合的に学ぶにあたり、基礎的学力と必要な知識を有している。
- (2) 「農業」、「食料」、「環境」分野における「国際協力」、「技術」、「ビジネス」、「マーケティング」、「文化」、「教育」、「政策」などに関心を持ち、地域社会や国際社会で活躍する意欲を有している。
- (3) 実験・実習・演習等に通じた学びに強い関心があり、多様な人々と協働して学ぶ姿勢を有している。
- (4) ある事象に対して多面的かつ論理的に考察して、自分の考えをまとめ、適切に他者に伝えることができる。

<国際農業開発学科>

国際農業開発学科では、環境保全に配慮した農業・農村開発を推進するために必要な教育・研究を行うとともに、グローバルな視点で農業開発を実践する人材を養成します。そのため、本学科では、次のような学生を求めています。

- (1) 日本の高等学校卒業程度の英語、理科系科目、国語、社会系科目の基礎学力と必要な知識を修得している。
- (2) 開発途上国の農業・農村開発に関心があり、国際協力のために積極的に活動する意欲や、国際社会に貢献する希望を有している。
- (3) 異文化理解のための柔軟な思考ができ、多様な人々と協働するためのコミュニケーション力を有している。

<食料環境経済学科>

食料環境経済学科は、社会科学の手法を用いて、食料・農業・環境を含む広い意味での「食」を取り巻く課題を究明し、豊かな食とより良い社会の実現に資する人材を養成します。そのため、本学科では、次のような学生を求めています。

- (1) 社会科学の手法を用いて、「農業」、「食料」および「環境」を取り巻く課題を究明する食料環境経済学を学ぶにあたり、社会系科目に対する興味・関心を持ち、高校で履修する各科目の基礎的な学力を有している。
- (2) 食料・食品の生産・流通・販売・消費や環境などに関心を持ち、地域社会や国際社会におけるビジネス分野や公務員など公的分野、教員など教育分野で活躍する意欲を有している。
- (3) 食料・農業・環境に関わる現場での実習や演習等を通じた学びに強い関心があり、共同で議論し研究する姿勢を有している。
- (4) 実社会に生じている新しい動きや問題点を見つけ出し、実証的・理論的に分析して自分の考えをまとめ、他者との議論を行うことができる。

<アグリビジネス学科>

アグリビジネス学科では、食料の生産、加工、流通などにかかわる経営管理やマーケティング、情報処理などの知識を身につけた農業・食品系企業の経営幹部を目指し、国内外で広く活躍したいと考える人材を養成します。そのため、本学科では次のような学生を求めています。

- (1) 入学後の修学に必要な基礎学力を有している。具体的には高等学校で履修する国語、数学、外国語、社会、理科などの基本的な教科について内容を理解し、高等学校卒業相当の知識を有している。
- (2) 物事を多面的かつ論理的に考察することができ、自分の考えを的確に表現し伝えることができる。
- (3) 食料の生産、加工、流通等にかかわる経営管理・マーケティング、情報処理などに関心を持ち、農や食の分野に積極的に貢献する意欲・態度を有している。

<国際食農科学科>

国際食農科学科では、伝統的な食農文化の継承や開発により、地域社会や世界に貢献する人材を育成します。そのため、本学科では、次のような学生を求めています。

- (1) 日本の多様な食農文化を継承し、より付加価値の高い農産物等の食材の生産、加工、流通に貢献することを目指している。
- (2) 地域社会が伝統的に育んできた食農文化を継承し、活用をコーディネートし、多様な産業や活動の支援に貢献することを目指している。
- (3) 食農教育を通じた文化の継承とともに、新たな食農文化を創造し、地域から世界に向けて展開・発信することを目指している。

■生物産業学部

生物産業学部は、現代社会にとって不可欠な生物産業（生産－加工－経営）と自然環境の共生をテーマに、わが国有数の生物資源・自然資源を持つ北海道オホーツク地域という学びのフィールドと“冒険は最良の師である”という格言に基づく人間力の育成を重視した教育課程により、21世紀の持続的循環型社会に貢献できる人材を養成します。そのため、本学部では、次のような学生を求めています。

- （１）フロンティア精神・チャレンジ精神を持ち、将来、地域や組織のリーダーとして社会に貢献したいという志を有している。
- （２）生物産業（生産－加工－経営）およびこれらを統合した6次産業化を、実体験の中で学ぶことに強い関心がある。
- （３）健全な人間関係の構築を可能にするコミュニケーション能力を有し、協働して課題解決にあたることができる。
- （４）生物産業学を学ぶにあたり、各学科が求める基礎的学力と必要な知識を修得している。

<北方圏農学科>

北方圏農学科は、文理融合の学びを通して生物資源の生産、加工、経営と人の営みに関する知識と専門性を持った人材を養成するという学部共通の目的を基盤とし、北方圏を含む中～高緯度地域の陸圏における豊かな自然を題材にした実験実習と専門教育科目、卒業論文作成を通して生物生産の現場における課題の解決と持続的循環型社会の構築に向けて、他者と協働して取り組むことのできる実践力を備えた人材を養成します。そのために次のような学生を求めています。

- （１）広い視野に立って地域や社会に貢献する意思を持ち、明確な問題意識と問題解決に対する意欲を有している。
- （２）積極的に北方圏農学を学ぶ意欲を有している。
- （３）仲間と地域の人々との調和を大切にし、自分の考えを伝えるコミュニケーション能力と他者と協働できる能力を有している。
- （４）北方圏農学を学ぶ上で必要な「英語」、「国語」、「数学」、「生物」および「化学」の基礎学力を修得している。

<海洋水産学科>

海洋水産学科は、生物産業（生産-加工-経営）と自然環境の共生という学部共通の学びを基盤とし、水圏の生物や生態系そして環境はもちろん、これらの保全や増養殖にも興味を持ち、オホーツク海から地球全体の生物、生態系や環境に関する問題の解決に積極的に取り組むことのできる意欲を持った人材を養成します。そのため、本学科では、次のような学生を求めています。

- (1) 水圏における生物や生態系、これをとりまく環境に関する様々な問題に強く興味を持ち、自らの力で積極的に解決の糸口を探ることができる。
- (2) 得られた知識をもとに、様々な自然現象について創造的に深く考えて、自らの考えを的確にまとめることができる。
- (3) 与えられた様々な課題について自ら考えたことを、自らの言葉を用いて、多くの人々に平易に説明することができる。
- (4) 「生物」、「化学」、「数学」など自然科学に関する科目はもちろん、「国語」や「英語」についても基礎的学力を身につけ、それを応用することができる。

<食香粧化学科>

食香粧化学科は、生物産業と自然環境の調和した持続的循環型社会構築という学部共通の学びを基盤とし、生物資源の食品や香料、化粧品への「加工・利用」の学びを通して、持続的循環型社会におけるニーズや生活様式の多様化、産業構造の多角化に対応・貢献できる意欲的な人材を養成します。そのため、本学科では、次のような学生を求めています。

- (1) 生物資源や地域資源を活用する食香粧化学に関心があり、社会貢献に対する強い意欲のもと諦めない心を持って物事に自発的に取り組める。
- (2) 生物産業および6次化産業における「加工」の役割を考え、それにかかわる学問の探求に関心がある。
- (3) 課題解決のために必要な思考力、コミュニケーション能力を有している。
- (4) 食香粧化学を学ぶ上で求められる「英語」、「国語」、「数学」、「生物」および「化学」の基礎学力と必要な知識を修得している。

<自然資源経営学科>

自然資源経営学科は、人類の生存にきわめて重要な生物産業と自然環境が調和した持続可能な循環型社会を構築するために、経営学を中心とした社会科学の理論的・実践的な学びと研究を通して、広く社会に貢献できる人材を養成します。そのため、本学科では、次のような学生を求めています。

- (1) 本学の教育理念である実学主義のもとで、将来、地域や組織を通じて社会に貢献したいという強い意思を有している。
- (2) 生物産業の持続的発展や自然環境との共生に関心を持ち、明確な問題意識と強い学修意欲を有している。
- (3) 心身共に健全で自立した社会生活ができ、人間関係の構築を可能にするコミュニケーション力を有している。
- (4) 高校までの基礎学力を修得している。